

TOYOTA CITY CONCERT HALL

PIPE ORGAN







ホール開館5周年を迎えようとするこのとき、ホールのシンボルである念願のパイプオルガンが設置され、まさに「画龍点睛」となってホールも完成することとなりました。

このパイプオルガンは、世界的に著名なアメリカのオルガン製作者ジョン・ブランボー氏の手になるもので、同氏の日本初のオルガンです。

「J.S.バッハをはじめとした世界各国の作曲家達のオルガン曲を、彼らが期待していた通りの音色で演奏できるもの。さらにはヨーロッパの古典芸術とは一味違った新しい分野の芸術を創造できるもの」

製作者のブランボー氏が語った言葉が今ここに具現されました。北ドイツのバロック様式を基本におき、古典からロマン派、そして現代音楽にも対応できる斬新なオルガンです。

この繊細であると同時に華麗な響きのオルガンは、リュックポジティブ（背中のオルガン）が前面の左右に配置されるという独創的なデザインによって、コンサートホールを訪れる人々の耳と目を楽しませてくれることでしょう。

このパイプオルガンを積極的に活用しオルガン音楽の普及をめざすとともに、楽器の状態を常に最上に保ち、利用者への的確なアドバイスを行うため、専属オルガニストも配置しました。

オルガンが市民に広く活用され、「ホールのシンボル」から「市民のシンボル」となることを願っています。

……あなたのパイプオルガン製作者から

John Brombaugh

ジョン・ブランボー

パイプオルガンって何でしょう? 楽器ですか?

気品のある家具、それとも業績を讃える建築上のモニュメント?



◎ 木之下 晃

パイプオルガンが西洋文化によって公式に言及されたのは、2200年以上も前のことです。古代ギリシャ人はそれを、機械の力によって発生する「送風」装置によって鳴る楽器と記述しており、先史時代もうすでに人間が口で吹いていたパイプに似ていたものを持っていました。ローマ人がコロセウムの競技場での剣闘士の競技会開催時の音楽を提供するために、このような楽器を使用していました。ローマ帝国の「アクィンクム」には、およそ228年ごろに作られた、水で制御された風力の小さなパイプオルガンが彫られている石彫刻が残っています。この楽器のパイプは、奈良の東大寺の前にある、752年に青銅で作られた八角形の灯籠の一面に、描かれている観音像が吹いているパイプに驚くほどそっくりです。

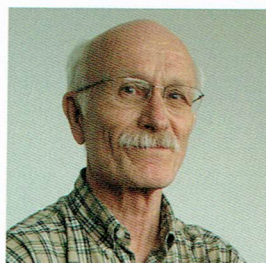
757年にビザンチン皇帝がフランク王ピピンに送った珍しい楽器が、現在、私たちが「オルガン」と呼んでいるものです。それを見た人々は皆、それが何で何のための物であり、また、どのようにこれと同じものを作れるのか見当もつかず、全く当惑してしまっただけのことです。それ以来、オルガンは西ヨーロッパ文化

の重要な一部となりました。中世末期以降、オルガンは、現在製作されているものによく似たパイプの付いた楽器に発展してきました。1361年、ドイツにあるハルバーシュタット大聖堂のオルガンには、10メートルに近い金属のパイプが付いており、そのパイプを演奏するシステムは、豊田市のパイプオルガンのフィゴ装置とそれほど違いはなく、鍵盤は現在のカリヨンのものとよく似ていました。

オルガンはヨーロッパの各地域や地方に登場し発展し続け、それぞれの地方のオルガン音楽を聴く人々の言語の数ほど、オルガンの外観やスタイルは人々の嗜好に合わせて進化してきました。北海沿岸地方では、すでに初期の時代から最先端技術のパイプオルガン文化を持ち、それらはその時代の優秀な音楽家達に高く評価され演奏され、ルネッサンス初期以来ずっと、ヨーロッパ音楽界に多大な影響を及ぼしていったのです。このオルガンをもっと深く研究するならば、中には素晴らしい視覚的外観と何ともいえない美しい聴覚的快感を呼ぶハーモニーであらゆる音楽が演奏されるものが見つけられるかもしれません。

私の考える北西ヨーロッパのオルガンの最も顕著な特徴は音色、すなわち、そのパイプで人間の声を真似る方法、特に子供達の純粹無垢な歌声のような音を出すことです。昔のオルガン製作者達が一生懸命考えをめぐらしている時、彼等の聴きたい幅の広い音階を出すためには、どうしても多くの異なった長さや直径のオルガンパイプが必要であることを発見したのです。パイプは、木製でも金属製でも作られますが、金属は、製作者達にデザインや製作面において融通性を与えるだけでなく、オルガンの表面が形作られる時、見た目が見事でした。パイプ製作には、金属を様々な形や大きさに作り上げられる必要があります、それらを簡単に形作ることができる鉛、錫あるいは鉛と錫の合金を使用することが最適となりました。今回の製作においてこの手法を基に、皆様によりよい音色をお届けできるように心がけました。

中世期の職人達はゴシック建築の大聖堂に、人々の目を楽しませられるような形を作るための建築学的な図案が、大型のオルガンにも応用されました。ルネッサンス時代、これらのやり方はベニスの偉大なる建築



John Brombaugh
(ジョン・ブランボー氏)

■住所 アメリカ合衆国オレゴン州ユージン市

■経歴 1937年 生まれ

1960年 シンシナティ大学卒業

1963年 コーネル大学理学修士過程修了

1964年～67年 ノアック社、フィスク社で修行

1967年～68年 熟練職人として移動修行

1969年 オレゴン州に会社設立

家、アンドレア・パラディオ、といった優れた教師達によって発展されたアイデアにとって変わっていきましました。私達は視覚や聴覚が重要であることを良く知っています。

●
豊田市コンサートホールのパイプオルガンについて、もっと細部にわたって記述するために、1冊の本を書くことも可能ですが、ここでひとまず、皆さんのオルガン製作者としての言葉を終わりとさせていただきます。あとは、私達が作ろうとしていたものがどんなものだったかを、直接皆さんの目や耳に評価させてく

ださるよう望んでいます。つまり、音楽、建築を通してのいわば国境のないものであるということを……。皆さんのオルガン製作者達や音楽家達に、昔のオルガンが信じがたいほどの靈感を与え続けてきたように、今後何百年間ずっと、人々がこのパイプオルガンを楽しんでいただけるよう願っております！
心を込めて。

豊田市コンサートホール
パイプオルガン製作者

John Brombaugh

John Brombaugh (ジョン・ブランボー)



© 木之下 晃

Disposition

オルガンストップリスト

Great	Manual II	Positive Left	Manual I	Positive Right	Manual III
Præstant	I, II from as ¹ 16 -	Quintadena	16	Bourdon	16
Octave	8 -	Præstant	8 -	Bourdon	8 -
Spielflöte	8 *	Gedackt	8 -	Flûte Harmonique	8 -
Octave	4	Octave	4	Viola	8 -
Flute	4	Rohrflöte	4	Prestant	4
Octave	2	Sesquialter	II	Grosse Tierce	3 1/5
Mixture	IV-VI	Octave	2	Nasard	2 2/3
Trumpet	16	Waldflöte	2	Quarte de Nasard	2
Trumpet	8 *	Sifflet	1 1/3	Tierce	1 3/5
Trompette en chamade	8	Scharff	IV-VI	Larigot	1 1/3
Clairon en chamade	4	Dulcian	8	Flageolet	1
		Schalmey	4	Cromorne	8
				Bärpfeife	8
Bombarde	Manual III or II	Echo expressive	Manual IV	Couplers, etc	
Cornet (discant)	V	Stopped Diapason (oak)	8	Positive Left	Great
Bombarde	16	Viola da Gamba	8	Positive Right	Great
Trompette	8	Vox Celeste (tc)	8	Echo	Great
Clairon	4	Flute Douce	4	Echo	Manual III
		Nasard (tc)	2 2/3	Exchange: Bombarde on II, off III	
Pedal		Principal	2	Great	Pedal
Subbass (stopped wood)	32	Tertia (tc)	1 3/5	Bombarde	Pedal
Subbass (stopped wood)	16	Cimbel	III	Positive Left	Pedal
Violonbass (wood)	16	Fagot	16	Positive Right	Pedal
Præstant	16 -	Oboe	8	Echo	Pedal
Octave	8 -	Vox Humana	8		
Spielflote	8 *				
Octave	4				
Mixture	V-VI				
Contra Posaune (wood)	32				
Posaune	16				
Trumpet	8 *				
Trumpet	4				
Cornett	2				

* ペダルで使用できる手鍵盤のストップ
- 低音用パイプは他のストップとの共用
] 同一ピッチのパイプを使用

Zimbelstern
Tremulant (調整可能)



ホール開館5周年を迎えようとするこのとき、ホールのシンボルである念願のパイプオルガンが設置され、まさに「画龍点睛」となってホールも完成することとなりました。

このパイプオルガンは、世界的に著名なアメリカのオルガン製作者ジョン・ブランボー氏の手になるもので、同氏の日本初のオルガンです。

「J.S.バッハをはじめとした世界各国の作曲家達のオルガン曲を、彼らが期待していた通りの音色で演奏できるもの。さらにはヨーロッパの古典芸術とは一味違った新しい分野の芸術を創造できるもの」

製作者のブランボー氏が語った言葉が今ここに具現されました。北ドイツのバロック様式を基本におき、古典からロマン派、そして現代音楽にも対応できる斬新なオルガンです。

この繊細であると同時に華麗な響きのオルガンは、リュックポジティブ(背中のオルガン)が前面の左右に配置されるという独創的なデザインによって、コンサートホールを訪れる人々の耳と目を楽しませてくれることでしょう。

このパイプオルガンを積極的に活用しオルガン音楽の普及をめざすとともに、楽器の状態を常に最上に保ち、利用者への的確なアドバイスを行うため、専属オルガニストも配置しました。

オルガンが市民に広く活用され、「ホールのシンボル」から「市民のシンボル」となることを願っています。

TOYOTA CITY
CONCERT HALL
PIPE ORGAN



© 木之下 晃

豊田市コンサートホール

〒471-0025 愛知県豊田市西町1丁目200番地 TEL 0565-35-8200 FAX 0565-37-0011